

# ICT を活用したカナダの学校との交流

事業 分類	姉妹	教育	文化	スポーツ	保健・福祉・医療	経済
	都市	行政	ホストタウン	外国人技能実習	オンライン	その他
自治体	日本：北海道			海外：カナダ アルバータ州		

## 【事例紹介】

北海道とカナダ・アルバータ州は、平成6年度より、双方の高校生がペアを組み、2か月間互いにパートナーの家でホームステイをしながらパートナーの学校に通う「高校生交換留学促進事業」を実施しており、これまで北海道からは70の道立高校等、アルバータ州からは30を超える学校が参加している。カナダでは規模やカリキュラムが各学校によって異なるため、日本の学生は専門的な授業を受けられたり、自身で時間割を編成することができたり、日本の高校とは異なる環境を体験することができる。

しかし、令和2年度からは、新型コロナウイルス感染症の影響により相互派遣は延期することとなり、長年継続してきた同州との教育交流を継続させるため、Zoom Meetingsを通して交換留学を行うことになった。

その交流により、生徒の英語力の向上を図るとともに、国際的視野を持った生徒を育成し、北海道とアルバータ州の友好と親善を深めていくことを目的としている。

詳細：

<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/a0008/intl2/albertaict.html>

### 令和2年度

Zoom Meetingsを通じた交換留学は2か月間にわたり行われた。交流が本格的に開始する前には、事前交流会が開かれ、通信状態を確認しペア同士の自己紹介を行った。その中で、北海道側が設けたアイスブレイクの時間に日本語と英語両方で会話し、最後に生徒が好きなことについて発表し、パートナーから質問を受けた。

初の試みとなった令和2年度は、高校生9名が週に2回程度、オンラインで平日15分、週末30分間程度交流をすることになった。第1期は日本側がホストとなり、日本の生活（家庭及び学校）、生徒の地元などに関連するテーマで主に日本語で行われ、第2期はカナダ側がホストで、アルバータ州の生徒が同じテーマについて話し、会話などはできるだけ英語で実施された。

事業の第1期と第2期終了後に実施内容についてアンケートが行われ、参加した生徒からは「相手地域に対する理解が深まった」や「英語力が向上した」という満足度の高いコメントもあり、オンライン国際交流事業として成功裏に終わることが出来た。



R2年度の交流の様子

### 令和3年度

令和2年度のアンケートをもとに、令和3年度は交流時間を平日20分、週末30分に延長し、参加できる人数を増やすなど、より良いオンライン交流に向けた改善が進められた。

第1期の交流時間はアルバータ州で18時～20時としたため、アルバータ州の学校での日常の様子が見られなかったことから、第2期は14時～16時（日本時間の6時～8時）に設定された。その時間帯以外での交流を希望する生徒がいた場合は、事前にパートナーと調整することも可能とした。

なお、令和2年度ではZoom操作について説明がなく、交流時間が短くなったケースもあったので、事前説明会の際にZoomに関する説明も行われた。

さらに、時差の関係でリアルタイム交流が難しいため、またプログラムが終了しても交流が継続できるように、オンラインの交流に加え第1期終了後にクラウドサービスを使用したビデオメッセージ交換という新しい交流の形も導入され、2期以降の交流内容の充実を図るための中間交流会も新しくスケジュールに入れられた。

これらの改善により、アンケートでは参加者から「回を重ねるごとにスムーズに交流することができるようになった」や「交流前よりスピーキング力、リスニング力が向上した」など、満足度の高いコメントがたくさん寄せられた。



R3年度の交流の様子

## 【(参考) 姉妹提携両地域の概要】

	北海道の概要	アルバータ州の概要
人口	5,178,551人(2022年1月31日現在)	4,262,635人(2021年現在)
面積	83,450 km <sup>2</sup>	661,848 km <sup>2</sup>
概況	<p>北海道は太平洋、日本海、オホーツク海に囲まれ、日本の北端に位置するが、ローマやニューヨークなどとはほぼ同じ緯度にある。</p> <p>面積がもっとも広く、人口密度がもっとも低い都道府県である。</p> <p>中央部には東西約15キロ、南北10キロほどの大雪山と総称される山岳地帯が形成され、「北海道の屋根」と呼ばれている2000メートル級の旭岳を主峰とする峰々がある。</p> <p>気候は年間を通じて冷涼低湿で、梅雨や台風の影響をあまり受けない地域となっている。</p> <p>主要産業としては、農林業(米、小麦などの畑作物、たまねぎなどの野菜、生乳、牛肉、木材など)や水産業(ホタテガイ、スケトウダラなど)、食品工業、観光業などが挙げられる。</p>	<p>カナダ西部に位置し、日本の1.8倍の面積であるが、人口の大半は中南部に集中している(特に州都であるエドモントンと最大都市であるカルガリー)。</p> <p>西部はロッキー山脈に接し、バンフ国立公園とジャスパー国立公園を有している。南部は広大な草原が続き、中央部は平原があり、北部は森林と平原である。</p> <p>大陸性気候で年間の寒暖の差が大きい、日照時間はカナダ10州の中で最も長い。</p> <p>主要産業としては、鉱業(石油、天然ガス、石炭)、農林業(カノーラ、小麦、畜産、木材)、観光業が挙げられる。</p>

## 【姉妹提携交流に係る周辺情報】

提携年月日	1980年10月17日
姉妹提携の経緯	<p>北海道と気候風土の類似するカナダなどの北方圏地域と様々な交流を通じて、相互の地域の発展を図ろうとする「北方圏構想」が1971年から重要施策となった。</p> <p>1972年9月に知事を団長とし、北海道カナダ・アラスカ経済文化視察団が派遣され、アルバータ州を訪問した際、北海道とアルバータ州の交流を進めることで合意し、様々な分野における活発な交流が始められた。</p> <p>特に、北海道の提唱で、1974年9月に札幌市で開催された北方圏環境会議の第2回会議が1979年9月アルバータ州で開催されたことによりそれまで以上に強い絆で結ばれ、姉妹提携の気運が盛り上がり、1980年9月5日に姉妹提携調印式をエドモントン市で、同年10月17日に札幌市で行った。</p> <p>その後、学術、文化、スポーツ等、幅広い分野で活発な交流が行われ、</p>

	2020年には姉妹友好提携を締結して40周年を迎え、様々な取組および交流を行った。
今後の展望、課題等	<p>道教委とアルバータ州教育省は、これまで築き上げた協力関係に基づき、コロナ禍においても、教育分野における両地域間の互恵的交流の拡大を推進するという方向性を共有している。</p> <p>交換留学とは異なり、オンライン交流は通信環境やデバイス、国際交流への熱意等があれば容易に参加できるプログラムである。今後は募集定員の増加や生徒の家族の交流への参加など、より多くの人々が参加できるようアルバータ州教育省と連携してプログラムの工夫改善に取り組みたい。</p>
《フォーラム等で掲載されている場合は記載》	
（作成年月：2022年04月）	

※事例紹介に掲載されております人口、面積等の情報は作成年月時点で公表された数値です。また、ホームページのリンク先、掲載動画等につきましては、自治体のホームページの更新等によりリンク切れになっている場合があります。